

ようじえんだより 2016年度10月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

10月主題『ためして』

主題聖句：「あなたがたは地の塩である。」 マタイによる福音書5章9節

☆ 0～2歳児：見えない神様の存在を感じ、礼拝する。生活の場が広がり、様々な人と交わる。保育者や友だちと身体を動かし、リズム遊びを楽しむ。見たり、真似したり、試したりして楽しむ。

☆ 3～5歳児：神様がくださっている力を出し合い、共に取り組む。季節の移り変わりを感じる。疑問や気づいたことを調べたり、考えたりする。友だちと遊ぶ中で、いろいろな方法に挑戦し、失敗を重ねながら試す。

母の死を通して

先日NHKの「SONGS」という番組に宇多田ヒカルさんが出演されていました。朝の連ドラの「とと姉ちゃん」の主題歌の「花束を君に」を歌っておられる時にある変化を感じました。私が大学生の頃に宇多田さんは10代でデビューし一世を風靡したのですが、あのころのような苦しそうな歌い方ではなく、自然な感じで歌っていました。その後の対談で、彼女の歌い方が変わった理由がわかった気がしました。宇多田さんはお母様が亡くなった後、活動をしばらく休止していました。その後出産を通して、母の思いを想像できるようになったとおっしゃっていました。自分そっくりの子どもを見て、「自分もこんなだったんだ」「母もこのように私を愛してくれていたんだ」と感じたそうです。そして再び歌おうという気持ちが湧いてきたとおっしゃっていました。

努力や思いが顧みられないこともある

先日友人が会社を辞めることになったと連絡をくれました。馬車馬のように働いて

働いてもうここまでというところでの決断でしたが、「君はこの〇年間いったい何をしてきたんだ」という言葉を受けたそうです。「言いたいことは山ほどあったけど、『一生懸命にやりましたが力不足でした』というのがやっとだった…」という友人の言葉に落涙しました。努力が大輪の花を咲かすことはまれで、心身をすり減らした努力が少しも顧みられず一人涙することのほうが世の中には多いのかもしれませんが。

傷ついて愛を知る

「花束を君に」の歌詞の中に「毎日の人知れぬ苦労や淋しみもなくただ楽しいことばかりだったら愛なんて知らずにすんだのにな」という一節があります。悲しみや切ない体験を通して傷つく中で、私たちは「愛」を知っていきます。「愛する」とは傷だらけになりながらも、それでも人のために生きることです。愛知らぬ人はそれを「ムダ」「ダサイ」と嘲笑するかもしれませんが、しかしそこに本当の美しさと尊さを見出すなら、私たちも愛に生きているのです。

園長：久保田愛策

年間主題『平和とともに』

主題聖句：キリストはわたしたちの平和であります
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章14節